

刊夕 日九十月七



定額一冊金五圓
 廣告料五號中二號一號行金五圓
 日曜祭日の翌日休刊
 發行所 常盤日報社
 電話 六三〇
 印刷所 常盤日報印刷株式會社

大悟十八回

眞繼雲山

法を開き、安心を得、悟りを開くの方策、如何といふに先づ第一は求むることである。叩けよ然らば開かれんであつて、求めざるもには與へられない。

然らば如何にして求めたものかといふに、それは多聞多讀に如くはない。

佛様とはどんなものであるかといふことは大問題であつて且つ六つかしい問題である。見性成佛といふも一心欲見佛といふも欲生我國といふも、畢竟するに佛を知りたい、佛様に値ひたいといふ願ひに外ならぬので、その佛様とは自體どういふものであるか、合点がゆけば佛法信仰は先づそれで半ば卒業である。アトは佛様となつて働き得ば佛法は丸く卒業である。

その佛様の正體が分らぬ故に皆んな迷ひ苦しんでゐるのである。

正直なところをいへば「わしが佛じゃ」といふて現身を表はして説法して下されたなら、それで得心がゆくのであらうが、惜しいかな三千年前の印度に生れ合はさなかつた私たちとしてはその注文は叶ふべくも

然らば末法末世のわれわれは如來にして正銘の佛様の聲を聞くべきかといふにそれは山色溪聲をそのまゝ如來身如來語と悟り得ぬかぎり、道元禪師の謂はゆる「智識に迷ひ、經卷に従ふ」の外はない。智識とは正師に就いて聞くこと、經卷とは謹みて佛書を拜讀することであつて、それが佛様のみ聲だとのお示しである。日蓮上人はそれを更に具體的に釋して、法華經こそは生ける釋尊なりとの信仰を高調せられた。

多聞多讀もとり可、たゞ一つに考へねばならぬことはその正味を知ることである、香水一瓶を買ふてさへも大部分の代價は廣告費や營業費、箱代、瓶代の風袋を買はせられるのであるやうに一時間の講演全部一冊の佛書全部が讀むその人の血となり骨となるかといふに、概ね風袋ばかりである。たゞその内にタツタ一言、タツタ一句だけでよい、琴線に觸れた正味のものがあるれば、それが即ち悟りとしての大收獲である。悟りとは經卷言説そのもの

にあるのではなく、謂はゆる一字不説が(眞諦)正味である。千萬語千參卷はその眞諦を指示する指に外ならぬ。

月を指す指を見ては千萬里の差を生ずる、謂はゆる一字不説の眞韻をつかむことによつて直きに胸奥の琴線が鳴ればよいそれを悟りといふのである。

この故に悟りとは一生に唯だ一回のもの、相場が定つてはならぬ。悟りとは胸中の琴線の高鳴りであるから何回あつても差し支へない、又なる程といふ破願一笑の境は何回にてもあり得る、蛇と見て繩であつたと知るのも小なる一つの悟である。趙州が大悟十八回、小悟無數といふてゐるのは蓋し這間の消息であらう。

私も近頃靜かに佛書をひもとく度に、胸中の禁線の時に美妙の音を立て、高鳴るのを覺える、その都度小悟無數に莞爾たるを覺ゆるのである。

砂金を拾ふのでさへ一升の砂になか／＼金一粒とあるものではない、末世に生れて佛のみ聲を聞かんと欲するものは、多聞多讀ひとへに佛を求むることによつて砂中に唯だ一粒の光りを求めねばならぬ。

耳鼻咽喉科専門

増田醫院

平南町 (電話四八二番)

産名城磐

し出賣大節鯉新

魚問屋

店理代平命生本日大最優最
 榮盛賀志
 番一三二電 目丁四平

☑ 配達敏速 ☑

夏服

軽くサラリとした新製品を豊富に取揃へました。

シルクポラー三編... ¥17.00
 シルクポラー上下... ¥12.00
 トルピカル上下... ¥7.50
 黒セル上衣... ¥3.00
 純毛白セルズボン... ¥2.50
 白直衣... ¥1.20

ふかや洋服店 平電二〇三

度量衡、計量器、吸入、用酸素、酸素吸入器

關内藥局

電話四〇番

貸切の●●●

御用命は?

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ.....(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

外科

X光線科
 性病科
 外科

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

入院隨意

經濟優美

靈樞自動車

平町新川町
 橋本屋造花店
 電話一六三番

海にも山へも!

御重入辨當.....

美味しくて滋養になりしかも體裁もよく何より中食には一番だど何處でも大好評です。何卒御持参下さる。

御料理 仕出し

錦水

電話四五四

夏井川の改修工事

國營有望らし

けふ農林省から平町に

調査書提出方通牒来る

既報夏井川の砂防工事は地
元川前村長宇佐美今次氏發
起のもとに關係
町村たる平、上下小
川、夏井、大野、大浦、平
窪、赤井の各町村長及び小
川江、愛谷江兩組合管理者
連署を以て國營施工の請願
書を後藤農林大臣並に東京
營林局長に提出猛運動を起
した結果今回農林省山林局
長より縣を経て關係各町村
に對し夏井川畔の
戸數と地目の反別並
に大正十一年の大洪水に依
る水害、旱害の耕地、宅地
山林、原野、人畜、土木等
の被害調査方の通牒があり
本日右通牒に接した平町役
場では近く詳細の調査報告
書を提出すべく準備中であ
る

變態的天候の

桃樹被害擴大

野菜畑に迄も害虫

石城郡平窪、大野外各町村
では桃の最盛期にありなが
ら變態的天候と氣温の低下
に依つて油虫の發生甚だし
きは既記の如くであるが就
中平窪村の被害激甚にて桃
樹の枯死するものあり殊に
最近では野菜類に迄も油虫
が移つて被害範圍益々擴大
するので郡農會でも捨て、
置けず近く果樹組合長會議
を招集し是れが對策及び共
同出荷其他に就いて協議を
行ふ事になつた

急告

左記各號の「常磐毎日新聞」
相當代價にて譲受け度し、お持ちの
方は御一報を乞ふ。 姓名在社

年月日(夕刊)	號數
昭和三・八・八	一三七九
同 三・八・一一	一三八一
同 三・八・二七	一三九五
同 四・一・一	一四八九
同 四・四・九	一五六六
同 四・四・一五	一五七一
同 四・六・二八	一六三一
同 四・六・二九	一六三二
同 四・一〇・一	一七一一
同 四・一二・一	一七七〇

馬匹の

貧血病

各地に發生

石城郡澤渡村字下市萱安部
安吉所有の牝馬及び三坂村
字下三坂佐藤長二郎所有牝
馬は去る十八日いづれも傳
染性貧血病と判明し直に撲
殺されたが是れが發生は氣

候不順の結果に依ると見ら
れ尚各村に發生する模様な
ので平署では近く各町村に
注意書を發する筈

平署の事務

檢閲講評

平署の事務檢閲講評の爲め
田中警務課長は本日午後六
時より各体育部長會議を開
き此程行はれる縣下中等學
校体育大會出場費其他の件
にて講評を行ふと

暑中の

集配難かん和

来る廿一日から

平郵便にては例年の通り暑中に於ける郵便集配難を
緩和する爲め来る廿一日から九月十日迄左記の通り
減便並びに出發時間を變更し集配人の勞苦を慰する
事となつた

- 一、減便名
 - イ、市内通常取集一號便(午前八時卅分出發の分)
 - ロ、市内通常配達二號便(午後零時卅分出發の分)
 - ハ、市外集配二號便(好間村方面(同時))
- 二、出發時刻變更
 - イ、市内通常取集二號便(正午十二時出發を午前十時十分とす)
 - ロ、市内通常配達三號便(午後三時卅分出發を同三時とす)
 - ハ、市内小包配達便(午前八時出發を同七時卅分とす)
 - ニ、市外集配一號便(午前七時卅分出發を同七時とす)

昨日の對抗柔道戰

磐城中學校對平商業學校二
三兩學年對校柔道試合は昨
日午後二時より磐中道場に
於て青天目四段審判の下に
行はれたが戰績は左の如く二
學年五對四にて平商勝

三學年は五對三にて磐中が
勝つた

平商	磐中
渡邊 ○	佐藤 ○
同 ○	高橋 ○
同 ○	小野清 ○
同 ○	小野 ○
同 ○	東海林 ○
木村 ○	猪狩 ○
西川 ○	若松 ○
千葉 ○	林 ○
同 ○	○
鳥越 ○	○
栗原 ○	○

磐中水泳部が 磐炭と對抗競技

出場選手が決定

磐城中學校水泳部にては今
夏八月四日磐炭プールに於
て磐炭水泳部と對抗競技會
を催す事になつたが當日の
磐中出場選手は左の如く決
定目下猛練習中である
(中距離 遠藤清己 阿部
喜八郎 渡邊三良(短距
離) 澁谷春雄(フレスト)
芳賀正康 國井靖郎(リ
レー) 遠藤 渡邊 阿部
澁谷)

平町人事

- △三丁目一六佐々木俊男氏
- △二男英二
- △新川町九今野茂藏氏長男
- 孝一郎
- △結婚 姻
- △石城郡神谷村字岸二七鈴
- 木與一郎(二六)氏傳(附可)

印刷御用命は總て
常磐毎日印刷株式會社
電話 三六〇番

新舞子への

主要道路を改修

遊覧客が非常な便

石城郡草野村下神谷より赤沼を経て新舞子に通ずる村道の改修工事は海水浴期節の迫つた事として工事を急いだ結果去る十五日全工事の終了を見たので同村では近く落成式を挙行すべく計画中であるが同道路の竣工と共に自動車の通行自由にて新舞子遊覧客は非常な便宜を受ける事になると

縣下野球大會

應援團を募る

磐中及び平商の選手を激励する

磐陽野球後援會にては來る二十三日の兩日郡山市に於て華しく催される縣下中等學校野球大會に出場する磐中及び平商を應援し磐陽健兒の意氣を發揚せしむべく目下應援團員を募集中であるが會費は一圓にて才拙小路魁文堂へ申込れたいと

珠算競技

第二校選手

既報平第二小學校にては本日放課後尋常科第五學年以上各學級より五名宛の選手を出場せしめ珠算競技會を催したが各學級より出場選手は左の如くである

- ▼尋常科（五ノ一）清水正惠 石井美智子 鯨岡富子 飛田ソヨ子 山部美枝子（五ノ二）加藤キヨ

吉田キヨ（五ノ二）和田登美 村上フミ 龜田久子 長谷川キヨ 豊田つた子

主人の

用筆筒から

金を盗んで逃走

石城郡小名濱町神明町理髮店木村義藏方雇人茨城縣多賀郡南中郷村字下柳生れ加澤三吉（三）は去る十八日午後八時頃主人の不在中奥の用筆筒より三十圓を窃取し行衛を晦したので本日主人より平署に捜査願があつた

鯨岡警部

明日出發す

今回關東廳警部に新任した四倉警察署長鯨岡恒氏は明日午後一時二分平發列車にて出發すると

ドモリを矯正

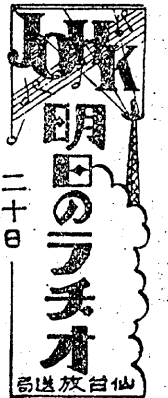
平第一で十日間講習

平第一小學校に於ては今夏八月一日より十日間吃音矯正講習會を催すが講師は新興吃音學院主事小野義彦氏で昨年は第一小學校生徒三名講習を受けたが何れも完全直つた由

海邊の

消防事業視察

石城郡内郷村消防組の幹部十餘名は去る十八日小名濱江名、豊間に出張し消防事



今夜は南東の風、曇り明日は南西の風晴れたり曇りたりと、より驟雨

今晚の部

- ▼後六、〇〇 子供の時間 獨唱と管絃樂 獨唱平井英子 管絃樂 日本ビクタ
- ▼後六、一〇 コドモの時間 村岡花子
- ▼後六、二五 カレントトピックス ハロルドバリーマ
- ▼後七、三〇 講座「挨拶並所感」九州帝大附屬病院
- ▼後八、〇〇 長唄「教草吉原雀一里千代外
- ▼後八、三〇 落語 立川談志
- ▼後八、五〇 チェロ獨奏 鈴木秋良外
- ▼後九、三〇 満州より 九州音楽
- ▼後九、三〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組預告

燕のお千代と

其の合棒判決

既報石城郡内郷村大字宮字金坂五十二番地佐藤松太郎内縁の妻無職燕のお千代事森田ちよ（五）が昨年十月頃より本年二月下旬迄衣類反物等百五十餘點此價格七百二十九圓を窃取した窃盜事件及び同村野菜商野澤磯吉（四）は右森田ちよが窃取した物品を買受けた贓物故賣事件の判決言渡しは昨日午後二時より平區裁判所に於て中島判事市川檢事立會の下に開廷されたが判事より求刑通じ森田ちよは懲役三年野澤磯吉は懲役八月並びに罰金五十圓を言渡された

御厩駐在所落成

石城郡内郷村御厩の巡査駐在所は腐朽甚だしいので同村消防組頭佐藤三平氏の寄附した建築材料に依つて是が改築中の處十八日落成を見た

成績不良注意

中學校にては此程一學期の考查試験も終り明日之が成績發表をなすが本日成績不良者百二十餘名の保護者に對し各々注意書を發した

四家訓導退職

二小學校訓導四家安男氏は本年四月以降病氣の爲め欠勤中であつたが重態の爲め此程退職した後任は目下縣にて物色中なれば今月末日迄には決定される模様である

尼子稻荷

祭禮執行 由緒深長橋町の尼子稻荷神社祭禮は來る廿一二の兩日盛大に催されるが餘興としては東

明日の部

- ▼前六、三〇 運動講座「ラヂオ体操第二の實施について」東京市視學藤本光清
- ▼前九、一〇 料理献立「ポイルドフィッシュ」菊地貞子
- ▼前一〇、三〇 家庭講座「後八、〇〇 獨唱と管絃樂 獨唱佐藤美子 日本放送交響樂團 指揮ニコライシヨエルブラット
- ▼後八、三〇 哥澤「夕ぐれ」 唱哥澤芝加竹 三味線哥澤芝愛
- ▼後八、五〇 連續浪花節「夕立勘五郎第一席」木村友忠

勿來共米販賣

郡勿來町農會の農産倉庫では明廿日産米の共同販賣を行ふ事となつたが入札俵数は五等百二十俵、等外八十俵、計二百俵であると

平職業紹介所報告

- 求人者の部
 - △女中 十七才以下 尋卒
 - △炊事婦 二十才以下 尋卒
 - △求職者の部
 - △倉働 三十才前後 尋卒
 - △月十圓（相馬郡中村町某）
 - △土工夫 三十三才 尋卒
 - △給料面談（平町某）
 - △倉働 二十七才 尋卒
 - △給料面談（平町某）
 - △雑夫 五十九才 尋卒
 - △給料面談（平町某）
 - △外交員 二十一才 高卒
 - △給料面談（平町某）



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演 近藤紫雲畫

第一百五席

眞庭念流達人櫻井五助

林藏故郷に歸る

山毛谷戸の源太郎は再び

磯五郎に對ひ

源『おとつさん俺達がこの土地にぬねえを幸ひに差障をした阿袋さんを抱込み仲直りをして林藏さんを伊勢から歸すやうにするとはチト小刀が利さすぎたナ、お前の伴林藏さんのために親分は佛になつてゐる、子分はそれを知りながら敵も討たず無事に林藏さんを戻したと他國の者に云はれては俺達の男が立たぬえ』

磯『イヤ、それは一應御尤とは思ひますがお前さん方がぬないから渡りをつける事も出来なんだ、腹も立たうが何うぞこゝは勘辨して下さい、御覽の通りわしも差障をしてゐる先年婆はアには死に分れ、子分は其後尋ねて来る者もなく頼りに思ふは伴一人、何うぞ其處を察しては笑つて下さ

い』源『それでは俺達の顔を立て、呉れ、主意が立てば林藏さんをこつちへ呼ぶ事にもしやう、只この儘濟ます事は出来ぬえ何うして呉れる』

と一同磯五郎の周圍も

ルリと取巻いた、磯五郎は暫く考へてゐましたが磯『斯うしませう、林藏が歸ればとて再び賭場は開かせぬえやうに致します、百姓にいたします、それで勘辨して下さいまし』



源『ウム、さうか、再び盆には坐らず鋤鎌を持たして百姓にさせると、何うだ皆斯う磯五郎どんが云ふがそれでも不承知か』

と尋ねられて中新田の源七、高萩の彌五郎、唐子の音吉、玉川の権太郎などが一同『博奕打が賭場に出張

らず百姓になるならば勘辨して遣る、林藏さんも長脇差を腰にして賭場に出張れば立派な男、その脇差を捨て、賭場にも出張らず百姓になれば只の人間、これを待たたとへると大小を捨て、百姓になつて詫たと同じことだ、さうなれば俺達の顔も立つ、オイトつさんこれは此場を切り抜けるための方便ではなからうな』

で磯五郎は武州川越領赤尾村を出て十日ばかり費し伊勢の白子の琴次の許に居る林藏の所へ来て、今度秋山先生阪戸の名主様の盡力で猪之松の身内や母親をも説きつけて仲直りが出来たから早速歸るやうにと慫云ひ込んだ、林藏も喜び又翠次も大層喜びました、ところが林藏の子分の藤藏が病氣で一月餘り寝てゐる、此病氣を癒して一緒につれて行かうと思つたが五日や十日ではまだ全快はせぬと醫者に云はれて

林『藤藏や、主も聞いたであらうが、おとつさんや秋山先生、阪戸の名主様の骨折で俺も久し振りで故郷の土の匂をも嗅ぐことも出来る、夫れに就ては茲三年越主は俺の供をして苦勞をしたものだ、一緒につれて行きたいがまだ身體を動かしてはよくないと醫者は云つてゐるが主を残して國へ歸る俺を不人情な親分だと怨むなよ』

藤『何ういたしまして、なんでそんな事を思ひませうア一目出度い事でございます、どうぞ親分わたくしなぞに遠慮せず一刻も早く歸つて下さいまし』

つて下さいまし』そこで林藏は琴次はちめ子分にも今迄世話になつた禮を述べ、藤藏の事を頼んで父親と共に伊勢の白子を立出したが、磯五郎はこれまで来たものとして大神宮様に參詣しようと思つて大廟に詣で、あれより東海道を下り江戸に入つて、それから川越在の赤尾村に戻つて来た

看護婦急派の求めに應じます。平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

運動靴は…… 月星 品質は斯界の王 名入れ金具付きの サービス 平町 大塚運動具部 電話七七番

科人婦。科外 院醫坂井 町田町平 番九五五話電

胃腸病薬の王座を占むる純漢法薬 松前 家傳 靈効散(無効返) ホントに北海道で出来た靈薬が着荷致しました。今迄のは福島市内で製薬したので兎角の批評がありました。今度のものは眞正のもので奏効確なものです。服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、瘧病、心臓、痔疾の方は是非御試し下さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散も出来ました。

正札堂の……夏服 黒ヘルセビロ上下 六圓ヨリ パンピースセビロ上下 八圓五十錢ヨリ ポーラーセビロ上下 九圓ヨリ ポーラー最上品三ツ組 拾八圓五十錢 白ズボン 七拾五錢ヨリ 正札堂洋服店 電話四三六

涼味百パーセント菊地の白靴 若いお方にノブル型 最新角型はモダン好み お中年のお方は先細型 とてもシイタで値が安い 当店自慢のリネンシュー 三、二〇ヨリ……五、〇〇マデ 平四 菊地靴靴店 電話(呼)四三六

科人婦。科外 院醫坂井 町田町平 番九五五話電